

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772100616		
法人名	株式会社 エコ (平成29年10月1日より株式会社あいの里に移行)		
事業所名	グループホーム みなみ 1階		
所在地	福島県本宮市糠沢字南箕内102-3		
自己評価作成日	平成29年8月21日	評価結果市町村受理日	平成30年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成29年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域の一員として運動会や消防訓練、敬老会など地域行事に参加し、地域住民との関わりを大切にしています。 季節に合わせた外出支援も行っています。 消防署や地元消防団の方々と連携図り、避難訓練等を行い、ホームの状況や入居者様の状態など把握していただけるような取り組みをしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1. 地区自治会に加入し、地域の各種行事(清掃活動・敬老会・クリスマス会・地区防災訓練)に参加し、地域のボランティアや専門学校実習生・中学生ボランティアを受け入れるなど、地域との関わりを大切に、利用者が地域の一員として交流を深めながら生活が出来るよう支援している。 2. 年間研修計画に基づき、法人内研修や職場内・外研修を実施し、職員の資質の向上を図りながらサービスの質の向上に努めている。また、職員の資格取得支援と助成を行いながら人材の確保と職員育成に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識したケアが行えるように、理念を職員の目の届きやすいところに掲げている。 また会議等にて定期的に理念を共有する機会を設けている。	運営法人変更により、新法人理念や基本方針の周知徹底を図り、事業所理念について、職員で話し合い継続することとした。法人理念・基本方針・事業所理念を事業所内に掲示し、申し送り時に唱和したり、会議などで理念に沿ったケアがなされているか確認しながら共有し、実践に繋げるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様の状況や希望に応じて地域の行事へ参加している。またホームに地域のボランティアの方々をお招きし交流を図るなど地域とつながりながら生活が送れるように支援している。	地区の自治会に加入し、地区総会や防災訓練、清掃作業に職員が参加している。また、利用者は地区の敬老会、婦人会主催クリスマス会に参加し交流を持っている。更に事業所の防災訓練には消防団や地域住民の参加があり、夏祭りでは、中学生ボランティアの継続的な交流があり、定期的な傾聴ボランティアの来訪で交流が深められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にてホームでの認知症の方への支援の仕方や認知症の方の取り組みを発信している。中学生のボランティアを受け入れ認知症への理解が深めることができるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議で意見等いただき、スタッフ会議にて職員で話し合い、内容によってはご家族様にも協力を得ながらサービスの向上へ繋がるように取り組んでいる。	運営推進会議は定期的開催している。会議では事業所運営状況報告や利用者状況を報告し、委員からアドバイスや意見を頂き、それを運営に活かしている。また、避難訓練に運営推進委員の参加を得て助言や提言を頂き、それを訓練に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修等へ参加し関係性を構築できるようにしている。また、ホームの状況を報告、相談を行うことにより協力関係が築けるように取り組んでいる。	市の担当者とは、課題を抱えた利用者の課題解決に向けた相談や運営状況の報告、市主催研修会などに参加し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加し、スタッフ会議にて伝達講習を行い、身体拘束のないケアを職員全員で行っている。また、身体拘束のマニュアルを活用したホーム内研修も行っている。	法人内研修や職場外研修に参加し、身体拘束の具体的な禁止行為を理解し、職場内伝達研修を行いながら情報を共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間帯だけで日中の施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の虐待防止研修に参加し、スタッフ会議にて伝達講習を行い虐待について周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修へ参加しスタッフ会議にて伝達講習をしている。利用者様で制度を利用している方もいるため職員全員が制度を理解できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時は十分な説明を行うことにより、利用者様やご家族様に理解と納得を得られている。不安や疑問点は理解しやすい表現を用いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いただいた意見等は管理者中心に反映できるようにしている。また運営推進会議メンバーへ要望等を説明し、意見等をいただくようにしている。内容によって本社へ報告し運営に反映できるようにしている。	利用者からは日頃の生活や雑談の中で要望や意向の把握に努めている。家族からは、運営推進会議や面会時などに要望や希望を聞く機会を設け、出された意見や要望を運営に反映できるよう職員で話し合いながら取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定期的に職員と面談を行い意見を聞く機会を設けている。意見等は本社へ報告し運営に反映できるようにしている。また日常の業務の中でも職員から意見が引き出せるように働きかけている。	管理者は日頃から職員が意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに配慮している。また、会議や個別面談の中で職員の提案や要望を聞くよう努めており、法人本部に吸い上げるシステムもある。また、法人で職員提案制度(報償あり)を導入し職員が意見や提言を出せるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の職員の勤務状況を把握し、給与体制ややりがいを持って業務を行えるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修を多く取り入れ、また法人外研修へ積極的に参加できるようにしている。働きながら資格取得できるよう資格取得しやすい制度もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同業者との情報交換ができる環境がある。市主催の研修等に参加することによりネットワーク作りを行っている。さまざまな活動を通してサービスの質向上ができるように取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査にてご本人様から要望等を伺うようにしている。困難な時はご家族様や担当職員等から伺い、ご本人本位のケアへ繋げ良い関係性が構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望等に耳を傾け安心していただけるような関係性を構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当介護支援専門員やご本人様、ご家族様の意向を確認し現在必要とされるサービスを見極めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の生活歴や日々の会話の中で知ることができた能力などを生かして頂けるように家事手伝い等を行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診やホームの行事に参加して頂き、互いに協力し合い共に支え合う関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や友人などがホームへ来訪しやすいような環境を作りをしている。入居者様から希望があった際連絡調整等も行っている。	家族や友人・近所の方など多くの訪問がある。友人や知人、家族などが訪問しやすい雰囲気づくりや友人などからの電話の取り次ぎなど、関係が途切れないよう支援している。家族の協力を得て墓参りや床屋、温泉へ出かけるなど関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が互いに気遣う言葉かけを行っていたり、食事時のお世話等をしている。関わり合いが持てる環境としてソファを利用した場所作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もホームの行事の案内等を送り、行事等への招待を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや意向を確認把握している。困難な方へはご家族様から意向を聴くなどして本人本位で検討している。	日常生活の中での会話や利用者の何気ない言葉を大切にし、思いや意向の把握に努めている。また、困難な場合は日頃の表情や動作、家族からの情報を参考に意向を汲み取り、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査にてご本人様や御家族様、担当介護支援専門員等から情報収集を行い生活歴や経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを行い、ケース会議で検討し全職員が把握できるようにしている。またご本人様の要望等を聴き出来る事の実現に向けて支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様とご家族様からの意向をケース会議にて検討し、その方に必要なサービスを取り入れた介護計画を作成し実践に繋げている。	毎月、個別支援経過記録を基に全職員でカンファレンス、モニタリングを実施し、利用者や家族の意向を反映し現状に即した介護計画を作成している。また、利用者の状態変化に応じた介護計画の見直しと、3ヶ月毎の見直しを行い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康状態は生活チェック表、日々の生活はケース記録に記入し、毎日の申し送りにて情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たに生まれるニーズ等はスタッフ会議にて検討している。外出支援や買い物など柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学生やボランティアの方々の協力を頂きながら、地域の中で楽しみを持ちながら暮らしていけるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様や御家族様の希望に応じたかかりつけ医を受診して頂き、医師と情報交換をおこなうことにより適切な医療が受けられるように支援している。	本人や家族の希望により、これまでのかかりつけ医の受診支援を行っている。受診の際は、主治医へ受診者の健康状態や日常生活の状況を伝え、家族の協力のもと適切な医療を受けている。また、受診結果については、受診記録に記載し職員間で情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師と情報交換を密に行い、入居様が今必要としていることなどを相談することにより適切な医療を受けることができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時に担当看護師等に状態の確認を行い、退院後の支援についても担当医から伺うなど関係者との関係性の構築を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事前確認を行い、またホームにて対応できることを説明し納得を頂いている。介護計画書説明時に定期的に意向を再確認し方向性の検討を行っている。ご家族様等の意向は主治医に報告している。	利用契約時、重度化した場合の対応に係る指針内容を説明している。重度化した場合は、看取りに関する意向を再確認し、主治医や家族と話し合い、事業所のできることを十分に説明しながら、方針を共有し支援している。また、職員が看取り介護に関する研修を受講し、共通認識のもと支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本社職員によるホームでの定期的研修や消防署で行う講習に参加し緊急時は対応できるように体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合防災訓練をはじめ、毎月消防訓練を実施し災害時に迅速な対応ができるようにしている。また消防団など地元の方々にも訓練に参加して頂き災害時の協力体制をはかっている。	消防署立ち会いのもと、地元消防団の協力を得ながら年2回の総合防災訓練をはじめ、毎月、自主訓練を実施しているが、地震・風水害を想定した訓練は行われていない。非常時の災害に備え、ヘルメット等の防災グッズの他、水や食料等も備蓄されている。	火災想定避難訓練だけでなく、今後は地震や風水害のリスクを想定した防災訓練を実施してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の生活歴や性格等を職員が把握し、日々のケアの中でプライバシーに配慮した声掛けを実践している。	法人内接遇研修と職場内伝達研修を行い、職員の接遇スキルの向上を図っている。また、日常のケアにおいて、職員が互いに注意しあいながら、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した支援に努めている。管理者による守秘義務の注意喚起と個人情報施錠管理し、取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう入浴時の洋服準備や飲み物を選んで頂ける様な環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や時間帯などを入居者様に伺いご本人様の生活スタイル合わせて入浴できるようにしている。日々の過ごし方もその方々に応じたりズムで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用し、ご本人様の希望の髪型にさせていただくなどその方らしい身だしなみや洋服等にておしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理のしごしらえや食器の後片付けなど役割を持って頂き、食事を楽しんでもらえるように支援している。	法人の管理栄養士が栄養バランスを考慮し、1ヶ月分の基本献立を策定し、事業所側で利用者の要望に基づいてアレンジしている。また、自家菜園で栽培した野菜や家族や職員からの野菜・果物の差し入れも献立に反映させている。季節行事や利用者の誕生日に応じた献立を作成し、利用者に食事を楽しんでもらえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量を観察し、栄養状態の把握を行うとともに、飲み物など習慣や好みの応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、職員は定期的に口腔内を観察している。就寝前や希望に応じて義歯洗浄剤にて清潔が保てるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、その方に合わせた誘導方法を実践しトイレにて排泄が行えるような支援をしている。	排泄チェック表を確認しながら利用者の排泄パターンを把握し、尿意がない利用者に対しても声掛けを行ったり、利用者の動作や仕草を観察し、トイレで排泄できるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を観察している。乳製品を多く取り入れる事や体操を行うことにより自然排便を促せるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調等に応じて、入浴日や時間帯を入居者様に合わせ対応している。また入浴剤などを使用し入浴を楽しめるような環境を作っている。	入浴は、利用者の希望と体調を見計らいながら、週2回以上入浴できるよう支援している。また、利用者と一緒に歌を歌ったり、会話を楽しんだり、ゆず湯等で季節を感じてもらおう等、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールのソファーや居室など入居者様が居心地良く過ごせるように対応している。夜間の室温の管理を行うことにより快適に睡眠が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様の内服状況を確認し、状態等に変化が見られた際は主治医や医療連携看護師と連携を図り対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や入居者様の状況を把握し、畳み物や家事手伝いなど役割を持ち生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に応じてドライブや買い物等の外出支援をしている。入居者様全員で出掛ける際は本社のバスを利用し花見などへ外出している。	介護度が高くなり外出する機会が減ってきているが、事業所周辺の散歩や近所のスーパーでの買い物等の支援をしている。また、家族の協力を得ながら、外食やドライブ等の機会も作っている。事業所の行事として花見や菊人形展、地域の敬老会等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時など入居者様自身でお支払いができるような支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からの希望に応じてご家族様や知人の方々へ電話連絡ができるような調整を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物を入居者様と作成している。共同生活空間はテレビの音量や光への配慮を行うことにより快適な空間になるようにしている。	共用空間には、掘りごたつが設置されている和室の他、居間にはソファーが設置され、日々の清掃や温度・湿度管理を適切に行い、壁には季節を感じさせる飾り付けを行い、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方々と会話を楽しめる空間があり入居者様が思い思いに生活できるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	個々のプライバシーへの配慮を行うとともに、使い慣れた家具などをお持ち頂き使用して頂くことで、居心地の良い生活空間を作っている。	各々の居室には、記念写真、家具等、馴染みの物を持ち込んでもらい、その人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。また、日々居室の掃除や温度・湿度管理を適切に行い、利用者が気持ちよく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の家具を入居者様の状態に応じて配置することにより移動を含め自立した生活が送れるように支援している。		